



セレブと呼ばれる女優・モデル・歌手達のヌード画像を、外部に流出させる事件が、注目を集めている。事件の特徴は、盗撮された画像ではなく、本人が自分撮り（以下、自撮り）した写真が、外部流出している点にある。背後には、2013年に世界的ブームになった自撮り（セルフィー）がある。

問題なのは、このセルフィーの中でも特に、性的な画像を友人や恋人などに送信したり共有するセクスティング（Sexting）である。日本も含め海外でも一般人の間で日常化していることが表面化しており、これが危惧される。セレブのヌード画像流出は、氷山の一角に過ぎない。今回は、この問題について紹介する。

セレブの画像流出事件とは

英語圏の匿名掲示板サイト「4Chan」（同サイトは2003年に開始）に、今年2014年8月末、ハリウッド女優や有名モデルといったセレブ（celebrity）のヌード写真を含む画像が、100枚以上という大量に流出した。さらに、このサイトからRedditやTwitterほかに、画像は広く拡散してしまったのである。

セレブは、特に有名なA-listerとそうでないB-listerとに分けられるが、狙われたのは前者のセレブ達のヌードを含む画像である。しかも、大量に流出したことが、世界中の注目を集めた。

狙われたのは、アップルのクラウドサービスicloudである。このサービスは、2011年10月に正式なサービスがスタートし、無料で利用できる。クラウドサービス市場のなかで、アップルのシェアは27%（Strategy Analytics社調査、2013年3月）を占めている。

この事件では、icloud を利用する iPhone のセキュリティの甘さが以前から指摘されていたが、アップルは否定している。FBI も調査を開始していると報じられており、今後事件の真相が明らかになるであろう。

いずれにしても、今回の事件は、クラウドサービスを利用する上で、利用者の注意が必要であることを、世界に再認識させたといつてよい。

この種の流出事件は、今回が初めてではない。2012年には、ハッカーが女優や歌手ら数十人のセレブのメールアカウントからヌード写真がハッキングされ、ネット上に繰り返し流出させた事件があった。犯人は逮捕され、懲役10年の刑と賠償金7万6,000ドル（約640万円）の支払いを命じられている。

事件の背後に、自撮りの日常化

この事件の背景に、デジタル時代のもっと深い闇がある。それは自撮り（セルフイー、Selfie、Selfy）が、性的な自分撮りを送信するセクスティング（Sexting）である。我が国では、エロ写メ（ネット上で）と呼ばれている。

セルフイーは、2013年には、世界中のセレブをはじめ多くの人の中でブームとなり、同年11月にはオックスフォード英語辞典の「今年という言葉」にも選出されている。オバマ大統領からレディガガまで数多くのセレブ、一般人も巻き込んだの大ブームとなった。

セレブから一般人まで、このセルフイーは多様化している。髪を強調するHelfie、ヒップを強調するBelfie、仕事姿を強調するWelfie、飲酒を強調するDrelfieなどがある。現在、注目を集めているのが、親しい友人達と一緒に撮るRelfieである。

自撮りは、画像だけでなく映像（ショートムービー）もあり、仲間との交換やウェブサイトでの公開が、日常化している。

注目すべきは、自撮りヌードは、セレブだけではなく、一般の若い女性の間で広く行われている。米女性誌のコスモポリタンが、この調査結果を発表している（“Cosmo Survey: 9 out of 10 Millennial Women Take Naked Photos” 2014/09/03）。

同調査（回答者は850人、平均年齢は21歳）によると、「米女性の9割が、自分撮りヌードを経験していた」、「そのうちの82%が、また、自分撮りヌードをする」、「自分撮りヌードをした人の10%が、外部に写真を公開していた」というものである。

この問題が深刻なのは、セクスティング行為が、10代の高校生から中学生にまで及んでいるとことにある。米テキサス大学医学部（ガルヴェストン）による調査によれば、公立高校生約1000人に対する調査で、高校生の28%がセクスティングを行っていたという（Archives of Pediatrics and Adolescent Medicine誌、2012年7月2日号）。

米サザンカリフォルニア大学の研究グループの調査（2012年、1285人を調査）によれば、「携帯電話を持つ中学生のうち、20%はセクスティングを行っていた」という（米小児科学会医学誌ペディアトリクス誌、2014年7月号）。

以上、アメリカの状況であるが、実は、日本は自撮り先進国である。何故なら、スマホの前のケータイ時代に始まっているからである。我が国では、2000年にカメラ付き携帯電話が発売されてから、「写メ」と呼ばれる自撮りが流行してきているのである。

我が国では、残念ながら若者におけるセクスティングに関するまともな調査はみあたらない。参考になる資料としては、警察庁発表がある。たとえば、「自ら裸を撮影42%＝児童ポルノ過去最悪－スマホ普及が背景・警察庁」（時事ドットコム、2014年3月6日掲載）である。これによれば、被害者として確認された18未満の少年・子供は過去最高の646人に達し、うち自撮りは270名の42%に達していたという。

(TadaakiNEMOTO)